

ポンドのリスクと BREXIT

ポンドのボラティリティーが高まってきた。1 か月のボラティリティー（変動率）はコロナウィルスの影響で多くの資産が暴落した 3 月から 4 月にかけての水準以来の高さだ。ボラティリティーは通貨オプションの価値を構成する主要因だ。

ポンドドルの為替レートはここ 3 か月ほど上昇傾向にあって先週は 1.35 台まで付けた。だが今週になって売られて 1.32 台まで下落したが、現在は 1.33 台で推移している。

こうした変動の最大の要因は BREXIT 後の EU と英国の貿易協定などに関する条件交渉の推移だ。BREXIT の移行期間は年末だが、それまでに合意が成立しなければ合意なしの BREXIT になってしまう。双方が大きな負担を追うことになる。手続きに時間がかかるため交渉の時間はもうあまり残されていない。あと 2、3 日が期限という人もいれば EU 側の交渉官は今日が期限だと言っている。いずれにせよ交渉の土壇場であることは確かだ。

今週になってポンドが売られたのは、それまで市場を支配していた交渉に関する楽観的な見方が変化したからだ。合意なしとなればポンドはどこまで下落するか見当がつかない。それでポンドを売る権利の通貨オプションのボラティリティーが買う権利のそれよりも高くなった。

BREXIT は国民投票で市場の予想に反して賛成が上回って以降、何度かポンドの大きな変動を引き起こした。特に合意なしの離脱の可能性が高まるとポンドの売りが強くなり、何とか合意が成立するとの期待が生まれると上昇傾向を辿ることを繰り返してきた。

今回の局面はその最終章だが、最後に来てまた合意なしの可能性が出てきたのは市場を振り回してきた BREXIT の面目躍如だ。

もっとも現在ポンドドルが 1.33 台で留まっているのはやはり最後は合意するとの見方の方が勝っているからだろう。

いずれにせよ現在のポンドは市場参加者の興味を引き立てる。リスクイだがポジションを取りたい人も少なからずいるはずだ。ではこうした市場に立ち向かうとしたらどうすべきか。

上下相当変動することが期待されるので通貨オプションの購入が考えられる。ただすでにオプションの価格は相当高くなっているのので、そこをどう判断するかだ。特に短期のオプションは時間の経過とともに急速に価値が減少するので注意が必要だ。

スポットや先物のアウトライトの取引ではいつもより少額にする。変動率が高い時はそれだけリスク額が多くなるからだ。ストップロスはず置き、実行する。変動が激しく市場が薄くなって定めたレートで実行できない時でもその時のベストプライスで実行する。逆張りは危険だ。順張りの方がけがが少ない。チャートポイントも通常時では有効でも変動が激しい時は通用しないことが多い。難平は命を縮めるようなものだ。勝ったらラッキーと思い自信を深めてはいけない。負けても自信を失う必要はなく、次の局面に備える。